

第 6 9 回

トラック運送業界の景況感（速報）

平成 2 2 年 1 月～3 月期

平成 2 2 年 1 ～3 月期の国内景気をみると、新興国の景気拡大、円安などを背景に輸出・生産が増加するとともに、非製造業にも持ち直しが広がった。

トラック運送業界でも、燃料高によるコストへの影響が出てきたものの、貨物量の顕著な回復により、輸送数量、営業収入が大幅に改善し、営業利益も持ち直した。業界の景況感の判断指標は▲ 4 6 で、前回調査での慎重な予想に反し、3 0 ポイントの大幅改善となった。指標の改善は 4 四半期連続となっている。

ただし、平成 2 2 年 4 ～6 月期の見通しについては、判断指標は▲ 5 8 で、今回よりも水準を下げる見込みであり、先行き不安は拭われていない。

平成 2 2 年 4 月 2 8 日

社団法人 全日本トラック協会

1. 今回（平成22年1月～3月期）の状況

(1) 概況

平成22年1～3月期におけるトラック運送業界の景況感は、「悪化」とした事業者は49%（前回65%）、「好転」とした事業者は13%（前回7%）で、判断指標は▲46となり、前回から30ポイント改善した（前回▲76）。指標の改善は4四半期連続で、前回調査の見通し（▲76の横ばい）を大幅に上回るものであった。

貨物別では、各貨物とも輸送数量の改善が顕著であり、特に宅配以外の特積み貨物では、50ポイントを超える大幅改善となった。

(2) 特別積合せ貨物

宅配貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が43%、「増加」とする事業者が24%で、判断指標は▲32となり、前回（▲75）から43ポイント改善した。営業収入も「減少」とする事業者が43%、「増加」とする事業者が24%で、判断指標は▲31となり、前回（▲76）から45ポイント改善した。営業利益は「減少」とする事業者が42%、「増加」とする事業者が18%で、判断指標は▲36となり、前回（▲52）から16ポイント改善したが、輸送数量、営業収入に比べると改善幅は大きくない。

宅配以外の特積貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が42%、「増加」とする事業者が32%で、判断指標は▲14となり、前回（▲67）から53ポイント改善した。営業収入は「減少」とする事業者が45%、「増加」とする事業者が28%で、判断指標は▲21となり、前回（▲64）から43ポイント改善した。営業利益は「減少」とする事業者が40%、「増加」とする事業者が25%で、判断指標は▲23となり、前回（▲42）から19ポイント改善したが、輸送数量、営業収入に比べると改善幅は大きくない。

(3) 一般貨物

一般貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が41%、「増加」とする事業者が24%で、判断指標は▲23となり、前回（▲66）から43ポイント改善した。営業収入は「減少」とする事業者が44%、「増加」とする事業者が22%で、判断指標は▲29となり、前回（▲66）から37ポイント改善した。営業利益は「減少」とする事業者が44%、「増加」とする事業者が19%で、判断指標は▲34となり、前回（▲56）から22ポイント改善した。

(4) 運賃水準

運賃水準は、宅配貨物は▲26（前回▲35）、一般貨物は▲25（前回▲34）となり、やや改善した。宅配以外の特積貨物は▲16で（前回▲33）で、ほぼ下げ止まりとなった。

(5) 実働率等

実働率は▲17（前回▲45）、実車率は▲15（前回▲38）で、ともに改善している。

雇用状況は▲11（前回▲17）で、ほぼ人手の過不足はない状況となっている。採用は▲18（前回▲28）、所定外労働時間は▲15（前回▲33）で、ともに改善している。

保有車両台数は▲24（前回▲31）で、やや改善したものの、他の指標と比べると改善幅

は小さい。貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）は▲３０（前回▲４９）で、水準を上げている。

(6) 地域別および取扱い品目別

業界の景況感を地域別にみると、北海道を除くすべての地域で改善がみられた。特に中国、中部は改善幅が大きい。東北は前回よりも改善したものの、他地域と比べると最も厳しい。

事業者の規模別では、大規模事業者での改善幅が大きい。

主な取扱い品目別では、建設関連貨物は改善の足取りが遅く、相対的な水準も低い。

２．今後（平成２２年４月～６月期）の見通し

(1) 概況

平成２２年４～６月期の見通しは、業界の景況感の判断指標は▲５８で、今回よりも１２ポイント悪化する見込み。

(2) 特別積合せ貨物

宅配貨物は、輸送数量、営業収入、営業利益とも大きな変化はない見込み。

宅配以外の特積貨物も、輸送数量、営業収入、営業利益とも大きな変化はない見込み。

(3) 一般貨物

一般貨物は、輸送数量、営業収入、営業利益とも、今回より水準を下げる見込み。

(4) 運賃水準

宅配貨物、宅配以外の特積み貨物は、大きな変化はない見込み。一般貨物はやや水準を下げる見込み。

(5) 実働率等

実働率、実車率とも、やや水準を下げる見込み。

雇用状況は、引き続き人手の過不足はない見込み。採用状況は横ばい、所定外労働時間はやや減少となる見込み。

保有車両台数は、やや減少が続く見込み。貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）はやや水準を下げる見込み。

(6) 地域別および取扱い品目別

業界の景況感を地域別にみると、東北以外のすべての地域で水準を下げる見込み。特に北海道は今回調査から水準を下げ、最も厳しい見込み。

事業者の規模別では、引き続き大規模事業者は相対的に良いが、各規模とも今回より水準を下げる見込み。

主な取扱い品目別では、消費関連貨物を除いて水準を下げる見込み。

3. 特積貨物の概況

項 目		概 況	
宅配貨物	輸送数量	前回 0 8 30 43 20 (-75) 今回 1 23 34 28 15 (-32) 見通 1 17 44 28 10 (-28)	・ 前回より大きく改善した。地域別では、東北は減少となっている。四国、北陸信越、北海道、中国、中部は減少に歯止めがかかった。 ・ 今後は今回とほぼ同様で、水準としてはやや減少が続く見込み。
	営業収入 (売上高)	前回 1 6 31 41 21 (-76) 今回 1 23 33 30 13 (-31) 見通 1 17 45 29 9 (-28)	・ 前回より大きく改善した。地域別では、九州、東北は相対的に水準が低い。北陸信越、四国、中国、中部は減少に歯止めがかかった。 ・ 今後は今回とほぼ同様で、水準としてはやや減少が続く見込み。
	営業利益	前回 2 11 36 36 15 (-52) 今回 2 16 41 28 14 (-36) 見通 1 12 48 31 8 (-33)	・ 前回より改善した。地域別では、九州は減少となっている。北海道、北陸信越、四国は減少に歯止めがかかった。 ・ 今後は今回とほぼ同様で、水準としてはやや減少が続く見込み。
	運賃・料金の水準	前回 0 3 66 23 8 (-35) 今回 1 6 65 22 6 (-26) 見通 0 4 68 25 14 (-28)	・ 前回よりやや改善した。地域別では、関東、中部は相対的に水準が低い。北海道、中国、東北、四国は下落に歯止めがかかった。 ・ 今後は今回とほぼ同様で、水準としてはやや下落が続く見込み。

【調査の概要】

- ◆平成5年3月より開始、以降3カ月ごとに実施。
今回は平成22年3月27日に配布。
平成22年4月23日到着分までを集計。
- ◆回収率：71.9%

	特 積	一 般	合 計
調査対象	2 5 6	6 4 4	9 0 0
回収数	1 2 6	5 2 1	6 4 7

項 目		概 況	
宅配以外の特積貨物	輸送数量	前回 0 10 25 53 12 (-67) 今回 2 30 27 37 5 (-14) 見通 0 22 45 27 6 (-17)	・ 前回より大きく改善し、減少に歯止めがかかった。地域別では、中国は増加だが、東北は減少となっている。 ・ 今後は、横ばいが続く見込み。
	営業収入 (売上高)	前回 1 9 27 50 12 (-64) 今回 2 26 28 38 7 (-21) 見通 0 21 44 30 6 (-21)	・ 前回より大きく改善した。地域別では、中国は増加だが、東北は減少となっている。 ・ 今後は今回とほぼ同様に、水準としてはやや減少が続く見込み。
	営業利益	前回 2 12 36 42 8 (-42) 今回 1 24 35 32 8 (-23) 見通 0 17 53 25 6 (-20)	・ 前回より改善した。地域別では、中国、四国、北海道はやや増加だが、東北は減少となっている。 ・ 今後は今回より僅かに改善する見込み。
	運賃・料金の水準	前回 0 2 67 26 5 (-33) 今回 2 6 70 21 3 (-16) 見通 0 6 71 22 2 (-19)	・ 前回より改善し、下落に歯止めがかかった。地域別では、北陸信越、関東はやや下落となっている。 ・ 今後は、横ばいが続く見込み。

凡例

	大幅に	増加・上昇・好転・人手不足	+2点
	やや	増加・上昇・好転・人手不足	+1点
	横ばい		0点
	やや	減少・低下・悪化・人手過剰	-1点
	大幅に	減少・低下・悪化・人手過	-2点

(注1) 各グラフの上段は前回の状況、中段は今回の状況、下段は今後の見通しを示す。

(注2) 各グラフの構成比は四捨五入のため、合計が100にならない場合がある。

(注3) グラフ右のカッコ内は業況判断指標。指標は、各設問の回答に対し、増加・好転+1～+2、横ばい0、減少・悪化-1～-2の点数を与え、1事業者当たりの平均を100倍することにより算出している。

A (設問Aの回答者数) = $a_1 + a_2 + a_3 + a_4 + a_5$ (設問Aの選択肢1～5の回答数の和)

指標 = $\{ (+2 \times a_1) + (+1 \times a_2) + (0 \times a_3) + (-1 \times a_4) + (-2 \times a_5) \} \div A \times 100$

4. 一般貨物の概況

項 目	概 況
輸送数量 (全 体)	前回 1 10 28 46 16 (-66) 今回 3 21 36 32 9 (-23) 見通 0 17 42 33 8 (-32) ・ 前回から大きく改善した。地域別では、四国、北海道、中国、北陸信越は減少に歯止めがかかった。東北は相対的に水準が低い。規模別では、大規模事業者は減少に歯止めがかかった。品目別では、消費関連貨物の水準が相対的に低い。 ・ 今後は今回よりやや水準を下げ、やや減少が続く見込み。
営業収入 (売上高)	前回 1 11 27 44 17 (-66) 今回 2 20 34 34 10 (-29) 見通 0 15 39 36 10 (-41) ・ 前回から大きく改善した。地域別では、四国、中国は減少に歯止めがかかった。東北は相対的に水準が低い。規模別では、大規模事業者は減少に歯止めがかかった。品目別では、消費関連貨物の水準が相対的に低い。 ・ 今後は今回より水準を下げ、やや減少が続く見込み。
営業利益	前回 1 12 32 41 14 (-56) 今回 2 17 37 33 11 (-34) 見通 1 11 42 37 10 (-45) ・ 前回より改善した。地域別では、東北、関東は相対的に水準が低い。規模別では、大規模事業者は減少に歯止めがかかった。品目別では、建設関連貨物の水準が相対的に低い。 ・ 今後は今回より水準を下げ、やや減少が続く見込み。
運賃・料金の水準	前回 0 3 66 27 5 (-34) 今回 1 3 72 20 4 (-25) 見通 0 3 68 24 5 (-31) ・ 前回よりやや改善した。地域別では北海道、中国、規模別では大規模事業者で、下落に歯止めがかかった。 ・ 今後は今回よりやや水準を下げ、やや下落が続く見込み。

5. 共通の概況

項 目	概 況
実 働 率	前回 1 9 42 39 9 (-45) 今回 1 17 52 24 6 (-17) 見通 1 11 55 27 6 (-28) ・ 前回より改善し、低下に歯止めがかかった。地域別では、中部、九州は相対的に水準が低い。規模別では、小規模事業者ほど水準が低くなっている。 ・ 今後は水準を下げ、やや低下となる見込み。
実 車 率	前回 1 9 48 36 6 (-38) 今回 1 16 55 24 5 (-15) 見通 1 11 57 25 6 (-24) ・ 前回より改善し、低下に歯止めがかかった。地域別では、東北は相対的に水準が低い。規模別では、小規模事業者ほど水準が低くなっている。 ・ 今後はやや水準を下げ、やや低下となる見込み。
雇用状況 (人手の過不足)	前回 1 10 64 22 3 (-17) 今回 1 10 70 17 3 (-11) 見通 1 11 63 22 4 (-17) ・ 人手の過不足感はない。地域別では東北のみやや過剰感がある。 ・ 今後も人手の過不足はない見込み。
採用状況	職業教育訓練 前回 0 5 70 15 9 (-28) 今回 0 6 78 10 7 (-18) 見通 0 6 76 12 7 (-20) ・ 前回より改善し、減少に歯止めがかかった。 ・ 今後は僅かに水準を下げる見込み。
所定外労働時間	前回 1 8 57 27 7 (-33) 今回 1 11 64 20 4 (-15) 見通 1 8 64 23 5 (-24) ・ 前回から改善し、減少に歯止めがかかった。 ・ 今後はやや水準を下げ、やや減少となる見込み。

項 目	
保有車両台数	前回 0 4 64 27 5 (-31) 今回 0 5 70 22 4 (-24) 見通 0 4 72 21 3 (-22)
・ 前回よりやや改善した。地域別では、東北は相対的に水準が低い。四国、九州、関東は減少に歯止めがかかった。規模別では、大規模事業者ほど水準が低くなっている。 ・ 今後は今回とほぼ同様で、水準としてはやや減少が続く見込み。	
貨物の再委託 (下請運送会社への委託割合)	前回 1 7 48 30 14 (-49) 今回 1 10 57 23 9 (-30) 見通 0 7 59 25 9 (-36)
・ 前回より改善した。地域別では、東北、中国は相対的に水準が低い。近畿、北海道は減少に歯止めがかかった。 ・ 今後は今回よりやや水準を下げ、やや減少が続く見込み。	
経常損益	前回 1 14 37 35 13 (-43) 今回 2 19 40 30 9 (-26) 見通 1 11 43 37 9 (-42)
・ 前回より改善した。地域別では中国、四国、中部、規模別では大規模事業者で悪化に歯止めがかかった。一方、小・中規模事業者は相対的に水準が低い。 ・ 今後は今回より水準を下げ、やや悪化が続く見込み。	
業界の景況感	前回 0 7 27 47 18 (-76) 今回 1 12 39 38 11 (-46) 見通 1 8 37 42 13 (-58)
・ 前回より改善した。地域別では、北海道を除く全ての地域で水準が上がった。東北は前回よりは改善したものの、相対的な水準は最も厳しい。規模別では、特に大規模事業者での改善が顕著である。品目別では、建設関連貨物は改善に出遅れがみられる。 ・ 今後は今回より水準を下げ、やや悪化が続く見込み。	

6. 事業者特性格の特徴

事業者特性	特 徴
① 地域（注4）	北海道は、全国順位 1 位から 6 位に下がり、景況感は僅かに悪化。 東北は、全国順位 5 位から 9 位に下がったが、景況感は改善。 北陸信越は、全国順位 6 位から 4 位に上がり、景況感は大幅改善。 関東は、全国順位 3 位から 7 位に下がったが、景況感は改善。 中部は、全国順位 7 位から 3 位に上がり、景況感は大幅改善。 近畿は、全国順位 4 位から 5 位に下がったが、景況感は大幅改善。 中国は、全国順位 9 位から 2 位に上がり、景況感は大幅改善。 四国は、全国順位 2 位から 1 位に上がり、景況感は改善。 九州は、全国順位 8 位のままだが、景況感は大幅改善。 ◆「業界の景況感」の業況判断指標の地方ブロック別順位◆ H 2 1 年 10～12月期 H 2 2 年 1～3月期 H 2 2 年 4～6月期見通し 1 位 北海道 2 位 四 国 3 位 関 東 4 位 近 畿 5 位 東 北 6 位 北 陸 信 越 7 位 中 部 8 位 九 州 9 位 中 国 四 国 中 国 中 部 北 陸 信 越 近 畿 北 海 道 関 東 東 北 九 州 東 北 四 国 中 部 近 畿 北 陸 信 越・中 国 関 東 東 北 九 州 北 海 道 文字の凡例 標準文字:やや悪化 ゴシック:悪化 反転文字:強い悪化
② 規模（注5）	・業界の景況感は各規模とも改善しているが、特に大規模事業者での改善が顕著。
③ 品目（注6）	・消費関連貨物は、前回から改善しているものの相対的な水準は低い。一般貨物の輸送数量では、特種品、日用品、食料工業品では改善がみられた。今後も水準に大きな変化はない見込み。 ・建設関連貨物は、前回からやや改善したものの、相対的な水準は最も低い。一般貨物の輸送数量では、特に林産品の水準が低い。今後は水準を下げ、引き続き最も厳しい見込み。 ・機械関連貨物は前回から大きく改善した。一般貨物の輸送数量では、電気機械、輸送機械は前回からの改善幅が著しく大きい。今後は水準を下げ、再び減少となる見込み。 ・その他貨物は前回から大きく改善し、品目別でもっとも水準が高い。一般貨物の輸送数量では、化学工業品、化学薬品、金属製品、鉱産品、石油製品は減少に歯止めがかかった。今後は水準を下げる見込み。

（注4）地域分類は地方運輸局管轄地域区分に基づく。

（注5）規模別分類

大規模事業者：101両以上 中規模事業者：21両以上100両以下 小規模事業者：20両以下

（注6）品目別分類

消費関連貨物：農水産品、食料工業品、日用品など

建設関連貨物：林産品、砂利、砂、石材、建設用資材、窯業品（セメント等）など

機械関連貨物：電気機械（家電含む）、輸送機械（自動車等）など

そ の 他 貨 物：石炭、原油、金属、石油、化学、紙・パルプなど

7. 景況感一覧表

		特積貨物						一般貨物			雇用関連			総合計			
		宅配貨物			宅配以外の 特積貨物												
全　　体		↘	↘	↘	↘	→	→	↘	↘	↘	↘	→	↘	↘	↘	↘	↘
地 域	北海道	↘	→	→	↘	→	→	↘	→	↘	→	→	↘	↘	→	↘	↘
	東北	↘	↘	↘	↓	↓	↓	↓	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘
	北陸信越	↓	→	↘	↓	↘	↘	↓	↘	↘	↘	→	→	↘	↘	↘	↘
	関東	↓	↘	↘	↘	↘	→	↘	↘	↘	↘	→	→	↘	↘	↘	↘
	中部	↓	↘	↘	↘	→	→	↓	↘	↘	↘	→	→	↘	↘	↘	↘
	近畿	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	↘	↘	↘	↘
	中国	↘	→	↗	→	↗	↗	↓	→	↘	↘	→	→	↘	→	→	→
	四国	→	→	→	↘	→	↘	↘	→	↘	→	→	↘	↘	→	↘	↘
	九州	↓	↘	↘	↓	↘	↘	↓	↘	↘	↘	→	↘	↓	↘	↘	↘
事業 者 規 模	小規模事業者	↘	↘	↘	↓	↘	↘	↘	↘	↘	↘	→	↘	↘	↘	↘	↘
	中規模事業者	↓	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	→	↘	↘	↘	↘	↘
	大規模事業者	↓	↘	↘	↘	→	→	↘	→	→	↘	→	→	↘	→	↘	↘
取 り 扱 い 品 目	消費関連貨物	↘	↘	↘	↘	→	→	↘	↘	↘	↘	→	→	↘	↘	↘	↘
	建設関連貨物	↓	↘	→	↓	↘	→	↘	↘	↘	→	↘	↘	↘	↘	↘	↘
	機械関連貨物	↓	↘	↘	↓	↓	↘	↓	→	↘	↘	→	↘	↓	↘	↘	↘
	その他貨物	↘	↘	↘	↘	→	→	↘	→	↘	↘	→	→	↘	→	↘	↘

(注7) 各項目は、関連する判断指標(前年同期に対する水準)から平均値を算出。

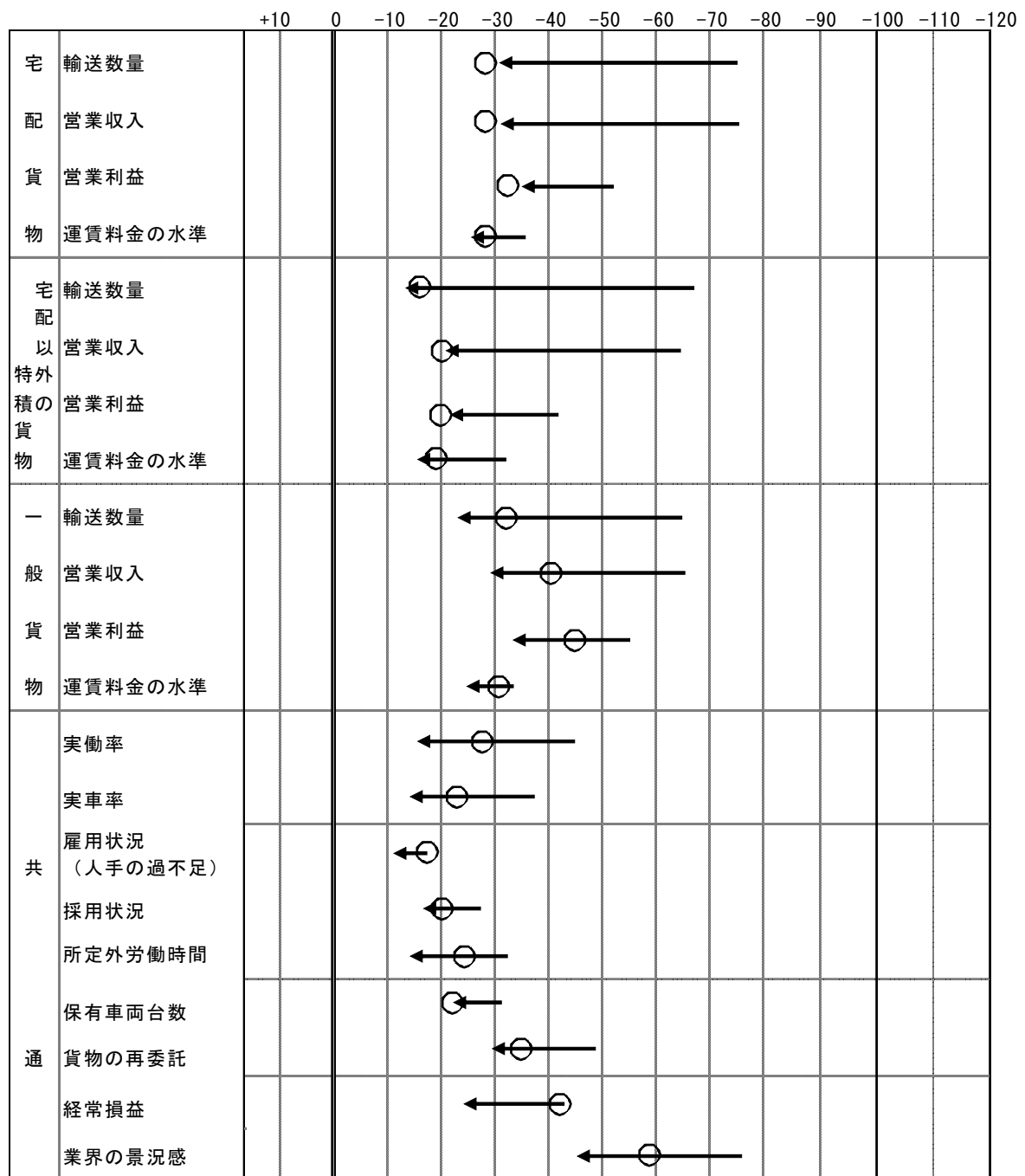
貨物別については、輸送数量、営業収入、営業利益、運賃水準の平均値で判断。

凡例・各欄は、左:前回(10-12月) 中央:今回(1-3月) 右:見通し(4-6月)

・矢印と判断指標の対応

判断指標	...	-100	...	-60	...	-20	...	+20	...	+60	...	+100	...
矢 印		↓		↓		↘		→		↗		↑	

8. 業況判断指標の前回調査（平成21年10月～12月期）からの変化



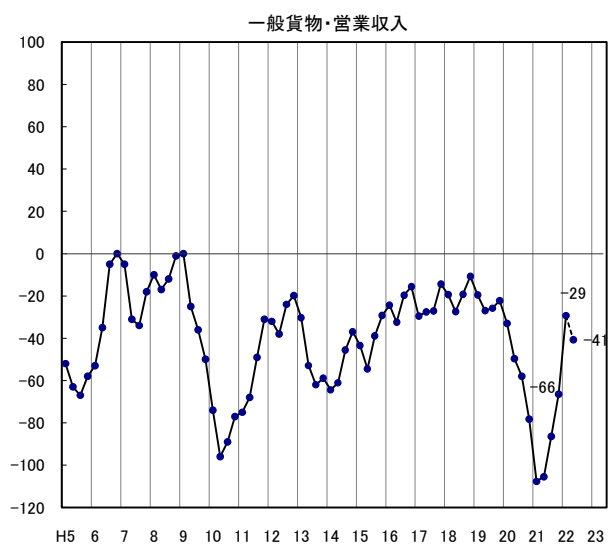
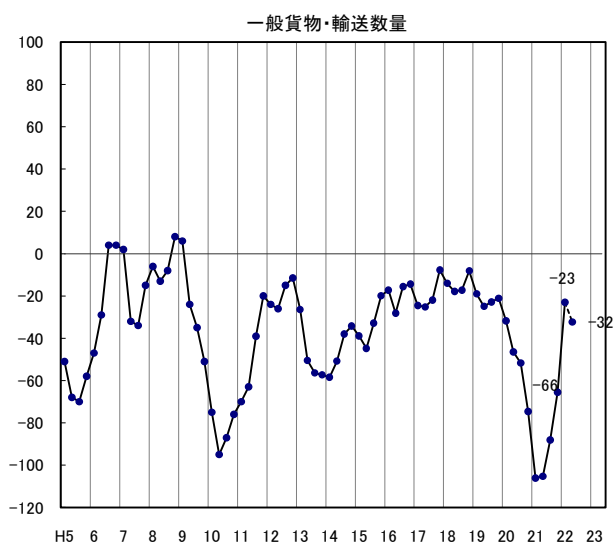
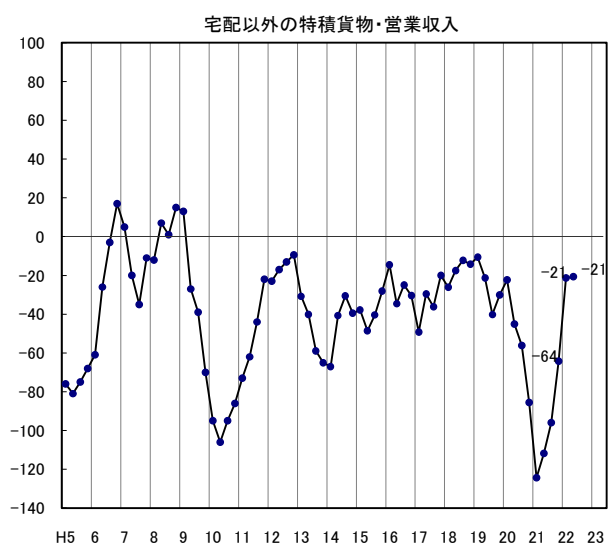
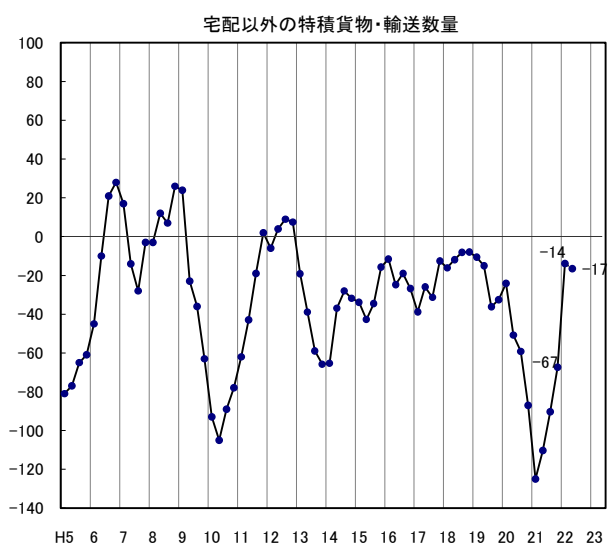
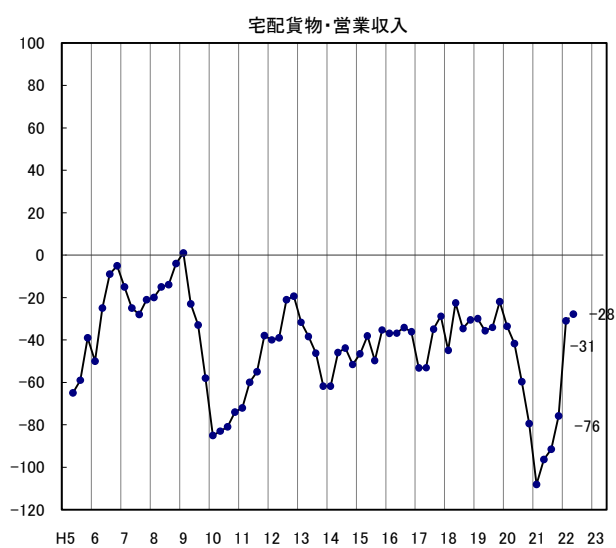
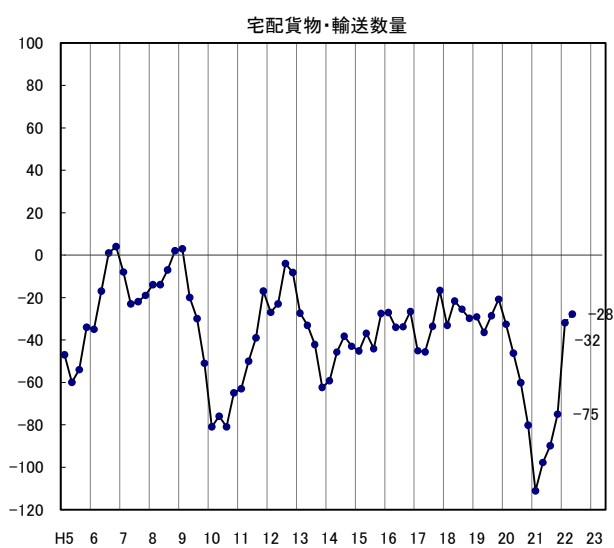
凡 例

矢元：
10-12月期の実績

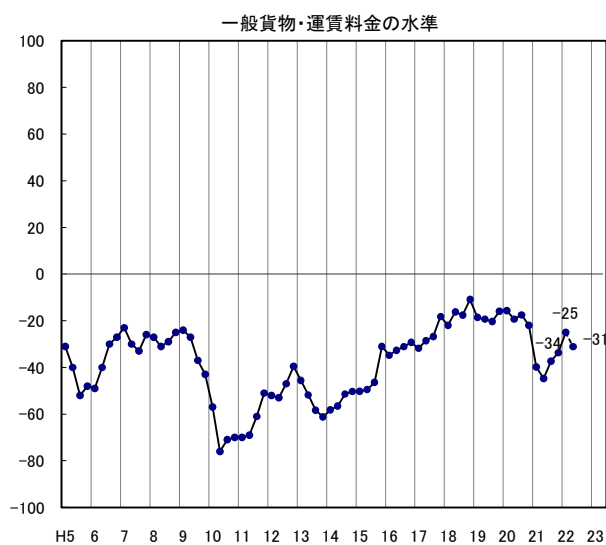
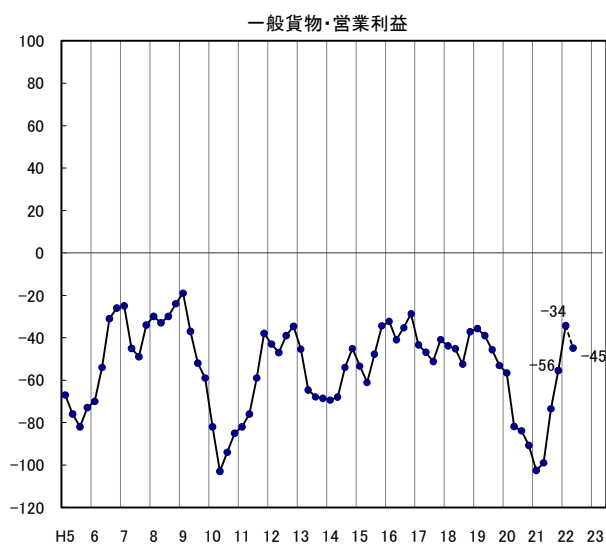
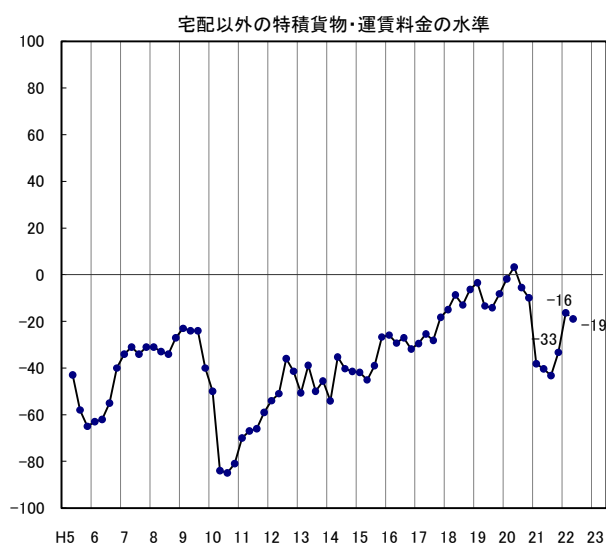
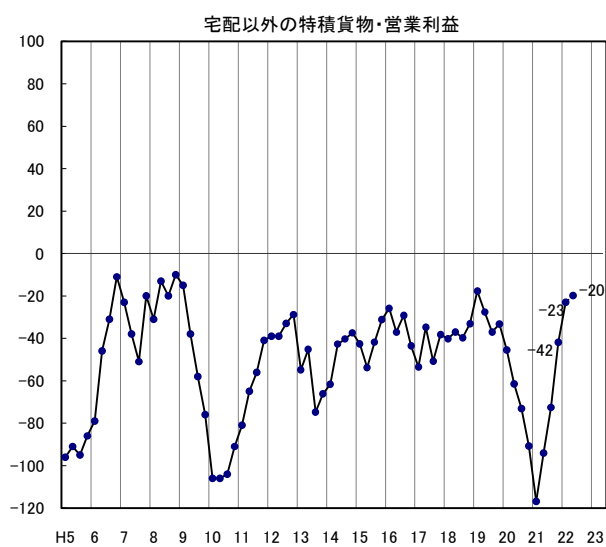
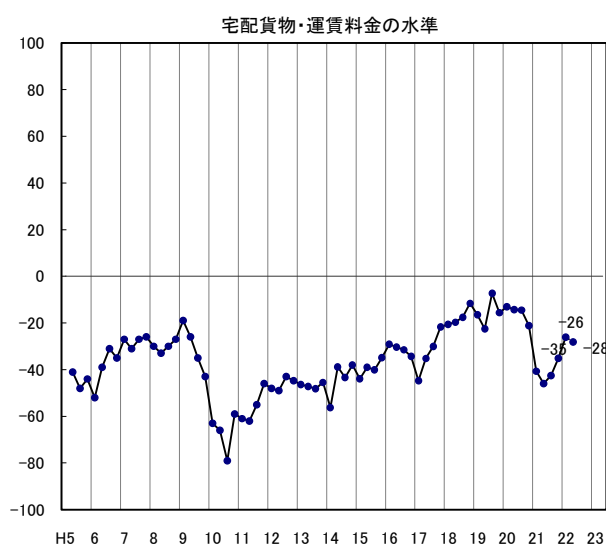
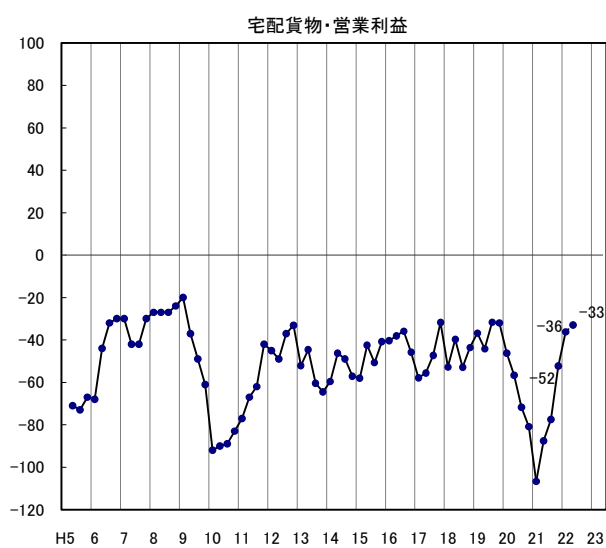
矢先：
1-3月期の実績

白丸：
4-6月期の見通し

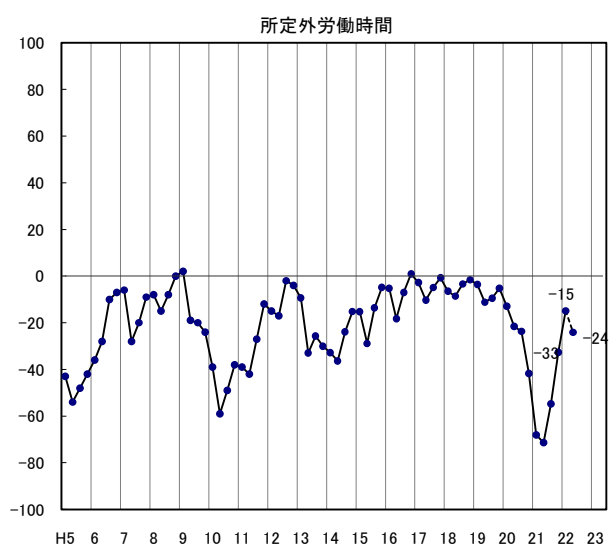
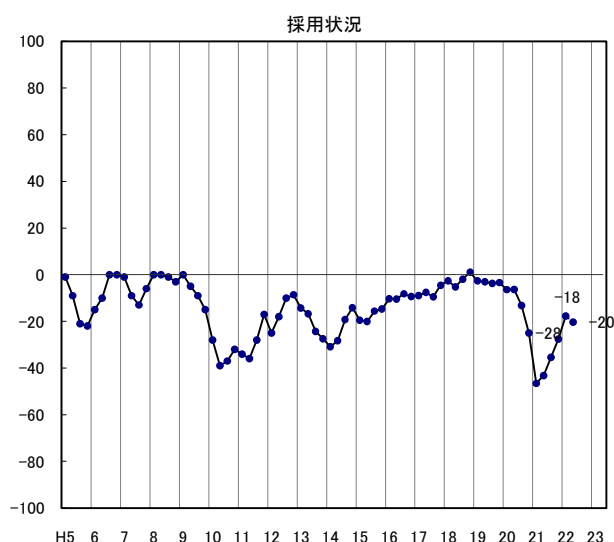
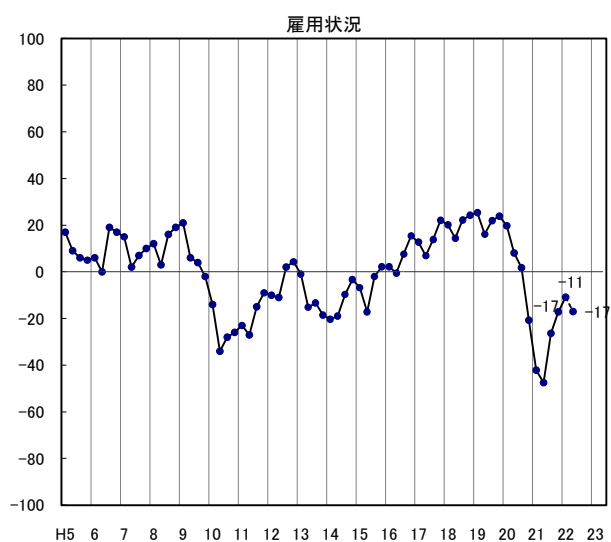
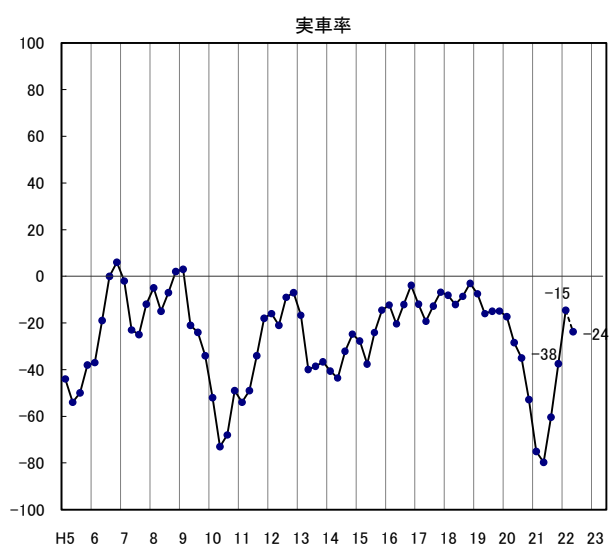
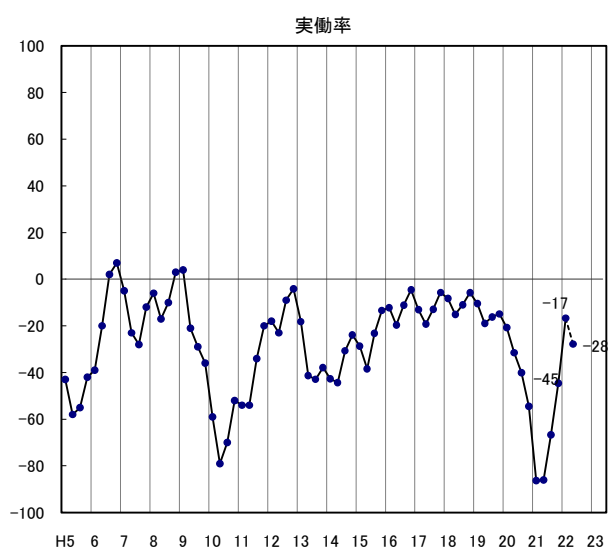
業況判断指標の推移
平成5年第1四半期～平成22年第1四半期実績、平成22年第2四半期見通し



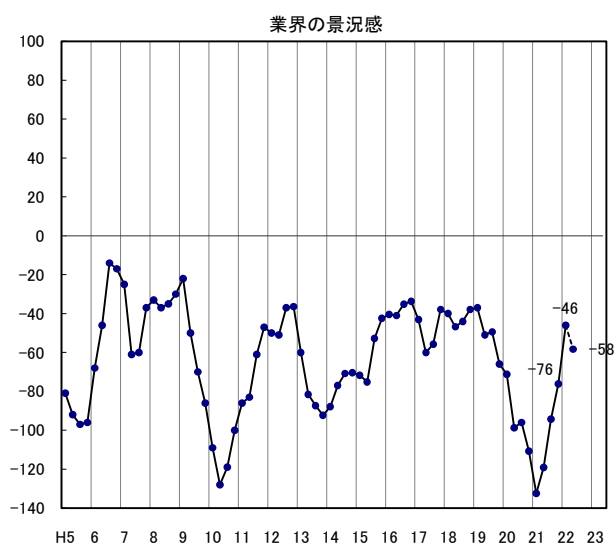
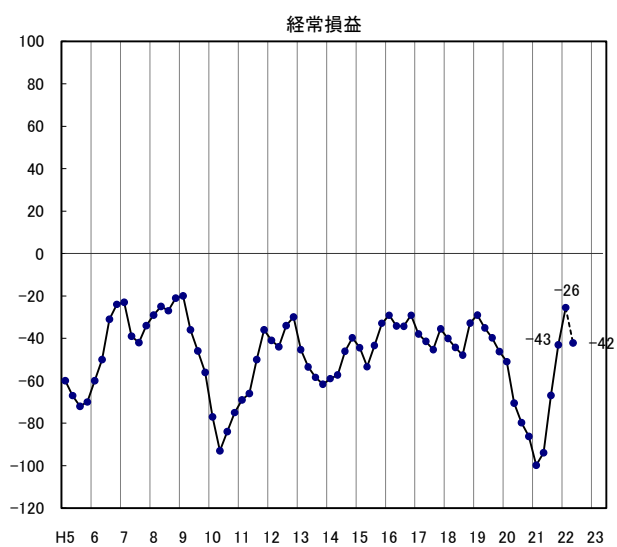
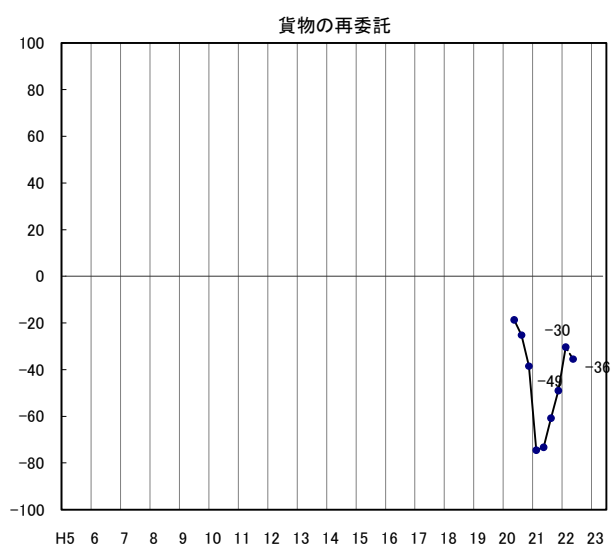
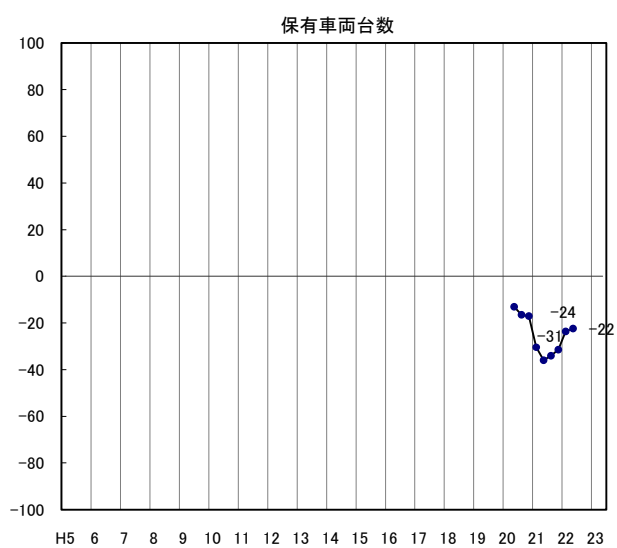
業 況 判 断 指 標 の 推 移
平成5年第1四半期～平成22年第1四半期実績、平成22年第2四半期見通し



業 況 判 断 指 標 の 推 移
 平成5年第1四半期～平成22年第1四半期実績、平成22年第2四半期見通し



業 況 判 断 指 標 の 推 移
平成5年第1四半期～平成22年第1四半期実績、平成22年第2四半期見通し



業 況 判 断 指 標 の 推 移
 平成5年第1四半期～平成22年第1四半期実績、平成22年第2四半期見通し

